

宝暦・天明期の文化—学問と思想

8代将軍徳川吉宗が漢訳洋書の輸入制限を緩和し、西洋の学術・知識が日本に流入した。これらはオランダ語を通じて学ばれ、蘭学と総称された。外から内へ流入が起きる一方、外来思想の影響を受ける前の、日本古来の思想を古典から探ろうとする気運が生じた。国粹を重視するこの動きは、幕末の攘夷運動にも影響した。

○和洋の学問

●洋学

18世紀初め、次の書物で西洋のわずかな学術・知識が、ごく一部の人にのみ伝わった。

『⁽¹⁾ _____』…⁽²⁾ _____ が長崎で見聞した海外・通商事情の地理書
 『⁽³⁾ _____』…⁽⁴⁾ _____ が屋久島に潜伏した宣教師⁽⁵⁾ _____ を訪問し、
 得た知識をもとに歴史・世界情勢を記述した書
 『⁽⁶⁾ _____』…(3)と同様に(4)が尋問で得た知識をもとに地理を記述した書



1720年、8代将軍⁽⁷⁾ _____ は漢訳洋書の輸入制限を緩和、
 また、⁽⁸⁾ _____ ・⁽⁹⁾ _____ らにオランダ語を学ばせた。

⇒日本での西洋の学問(洋学)は蘭学として発展し、また、実用的な面が強かった。



図1 シドッチ

<医学>

⁽¹⁰⁾ _____ …人体内部を観察し、日本初の解剖図録『^{かいぼう}蔵志』を著した人物
⁽¹¹⁾ _____ ・^{りょうたく}前野良沢 …西洋医学の解剖書『ターヘル＝アナトミア』を翻訳し、
 全5巻の『⁽¹²⁾ _____』を著した人物たち
⁽¹³⁾ _____ …オランダの内科書を翻訳し、『^{せいせつないかせんよう}西説内科撰要』を著した人物

◇(11) …翻訳の苦心談を『^{ことはじめ}蘭学事始』で記述



図2 杉田玄白

<物理学・言語学>

⁽¹⁴⁾ _____ …長崎で学び、摩擦発電機の実験・不燃性の布の作成などをした人物
⁽¹⁵⁾ _____ …玄白・良沢に学んで、蘭学の入門書『⁽¹⁶⁾ _____』を著し、
 また、蘭学教育のための私塾⁽¹⁷⁾ _____ を開いた人物
⁽¹⁸⁾ _____ …オランダ人ハルマの『蘭仏辞書』を翻訳し、
 最初の蘭日辞書『⁽¹⁹⁾ _____』を著した人物



図3 エレキテル



図4 左図を参考にした『解体新書』の表紙

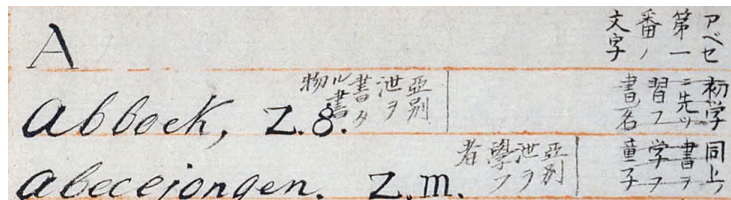


図5 『ハルマ和解』

科学技術在先取りした非常の人—平賀源内

平賀源内は、幼少から掛軸に細工を施し、長じて本草学・蘭語・医学・油絵を学び、どの分野でも異才を発揮した。発明品のエレキテル・火流布などは、実用化と結びつかず、源内の評価を二分する。最期は殺人の容疑から投獄され、獄中死した。杉田玄白は「非常の人、非常のことを好み、行いこれ非常、何ぞ非常に死するや」とその死を嘆いた。



●国学

元禄期、『万葉代匠記』の著者契沖が、日本古典の考証的研究を進めた。



18世紀、古典の研究が進み、日本古来の精神を説く学問⁽²⁰⁾ _____ が成立した。

⇒(20) は、儒教・仏教（儒仏）を外来思想として排除する傾向が強く、批判的精神も強い。

<国学者>

か だのあずままる

荷田 春 満…古語・古典研究で、儒仏の影響を受ける前の日本思想の解明を試みた人物

⁽²¹⁾ _____ …春満の門人で、『万葉集』の研究を通して日本古来の精神の復活を主張した人物

⁽²²⁾ _____ …真淵の門人で、国学を大成して『古事記伝』を著し、「漢 意」を批判した人物

⁽²³⁾ _____ …幕府の援助で、教授・文献収集をおこなう学問所⁽²⁴⁾ _____ を創設し、
また、『⁽²⁵⁾ _____』の編修・刊行をおこなった盲目の人物

○思想の発展

●尊王論

幕藩体制の中の天皇を王者として尊ぶ思想を⁽²⁶⁾ _____ と呼ぶ。

→(26) は元来「朝廷を尊ぶことで、天皇の委任で政権を預かる将軍・幕府の権威を守ろう」という思想だが、
後に「“王者”の天皇が“覇者（武力での支配者）”の将軍に勝る」という尊王斥覇に変質し、討幕に繋がった。

⇒水戸藩の『⁽²⁷⁾ _____』編纂事業を通して興った学問⁽²⁸⁾ _____ は(26) が強く、

朱子学を軸に国学・神道を総合して天皇尊崇と秩序の確立を説き、尊王斥覇の考えが主流であった。

◇(26) …主張者は、諸国を遊説した高山彦九郎、陵墓荒廃を嘆いた蒲生君平、『日本外史』を著した頼山陽

◇朝廷が実際に政権委任を強調したのは、1863年の14代将軍徳川家茂の時

<尊王論と事件>

1758年、⁽²⁹⁾ _____ …公家に尊王論を説いた国学者⁽³⁰⁾ _____ の追放事件

1767年、⁽³¹⁾ _____ …尊王斥覇を説き、幕政腐敗を強調した兵学者⁽³²⁾ _____ が死罪、
無関係の(30)も流罪となった事件

●生活に密接な思想

<庶民的生活倫理>

18世紀初め、京都の町人⁽³³⁾ _____ が儒学に仏教・神道を取り入れ、
庶民の生き方を説く学問⁽³⁴⁾ _____ を創唱した。

⇒また、(33)は『都鄙問答』を著し、四民の人間的平等、
商業の必要と利潤の正当性を訴えた。



(33)の教えは、手島堵庵・中沢道二によって全国に広められた。

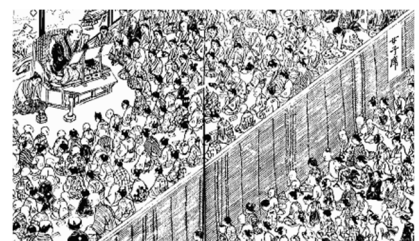


図6 手島堵庵と心学の聴講者

<社会への根本的批判>

18世紀半ば、「生産労働者＝被支配者」という構造を基盤とする社会を、
根本から批判し、それを改めようとする意見が現れた。

⇒例えば、八戸の医者⁽³⁵⁾ _____ は『⁽³⁶⁾ _____』を著して、
武士が農民から搾取せず、万人が耕作して生活する世の中を理想と主張した。



図7 安藤昌益